

# 実験が面倒だったので

# 直交表に割り付ける

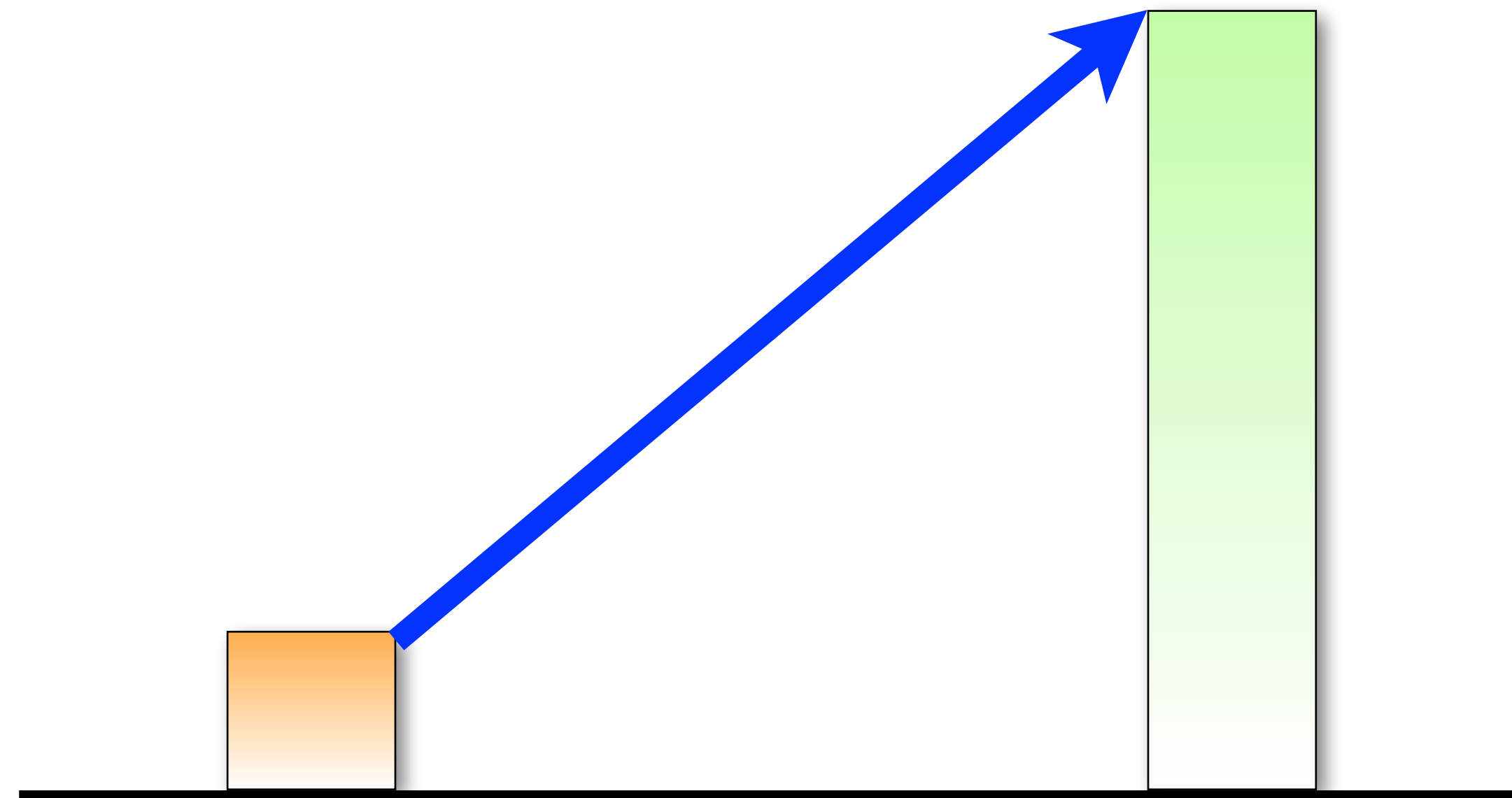


思ったほど  
改善  
できてない



# 制御因子を少なくした結果

品質工学を適用して性能を改善できるか否かは、  
その性能に効く制御因子がたくさん存在するか否かによります

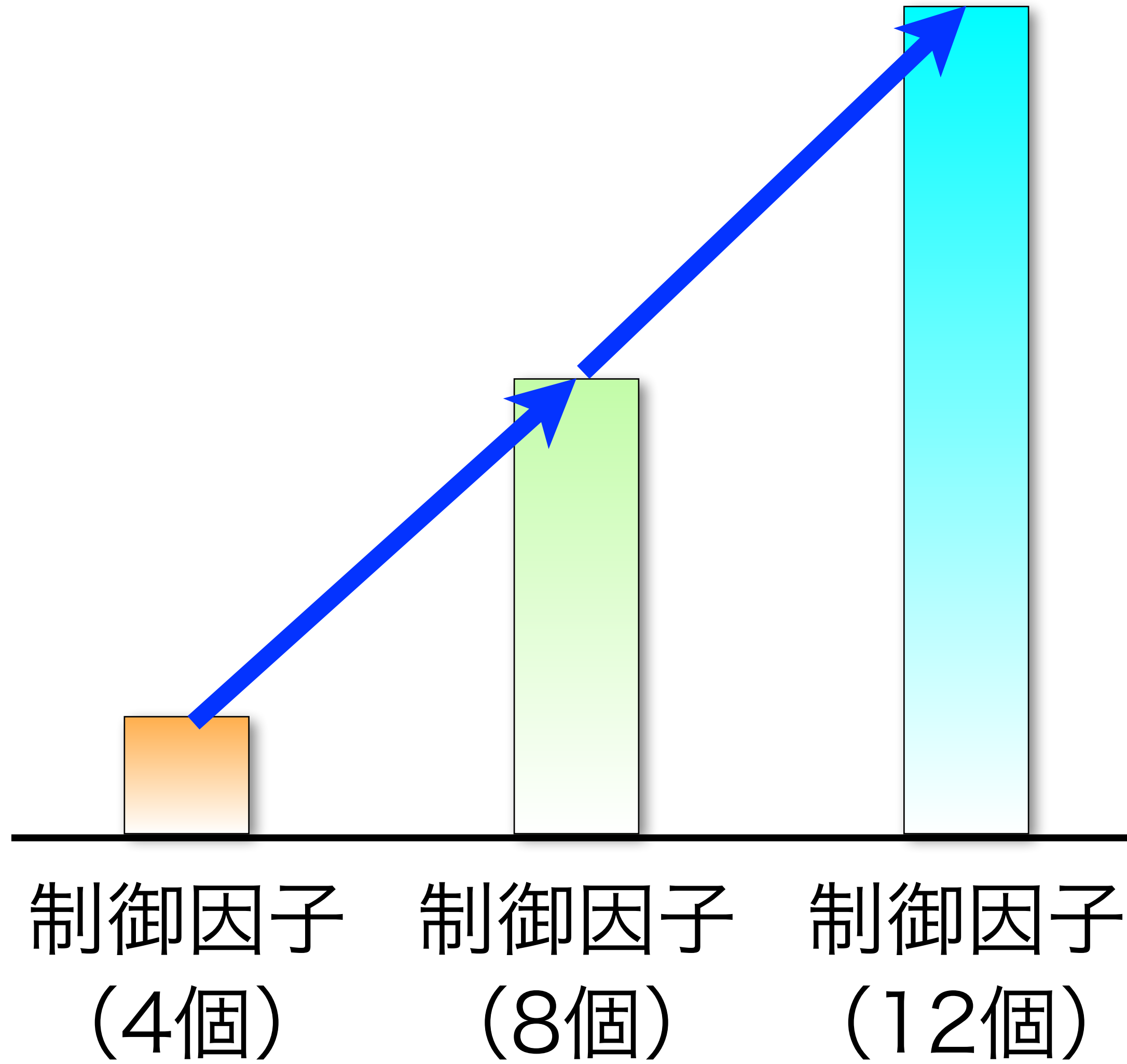


制御因子  
(4個)

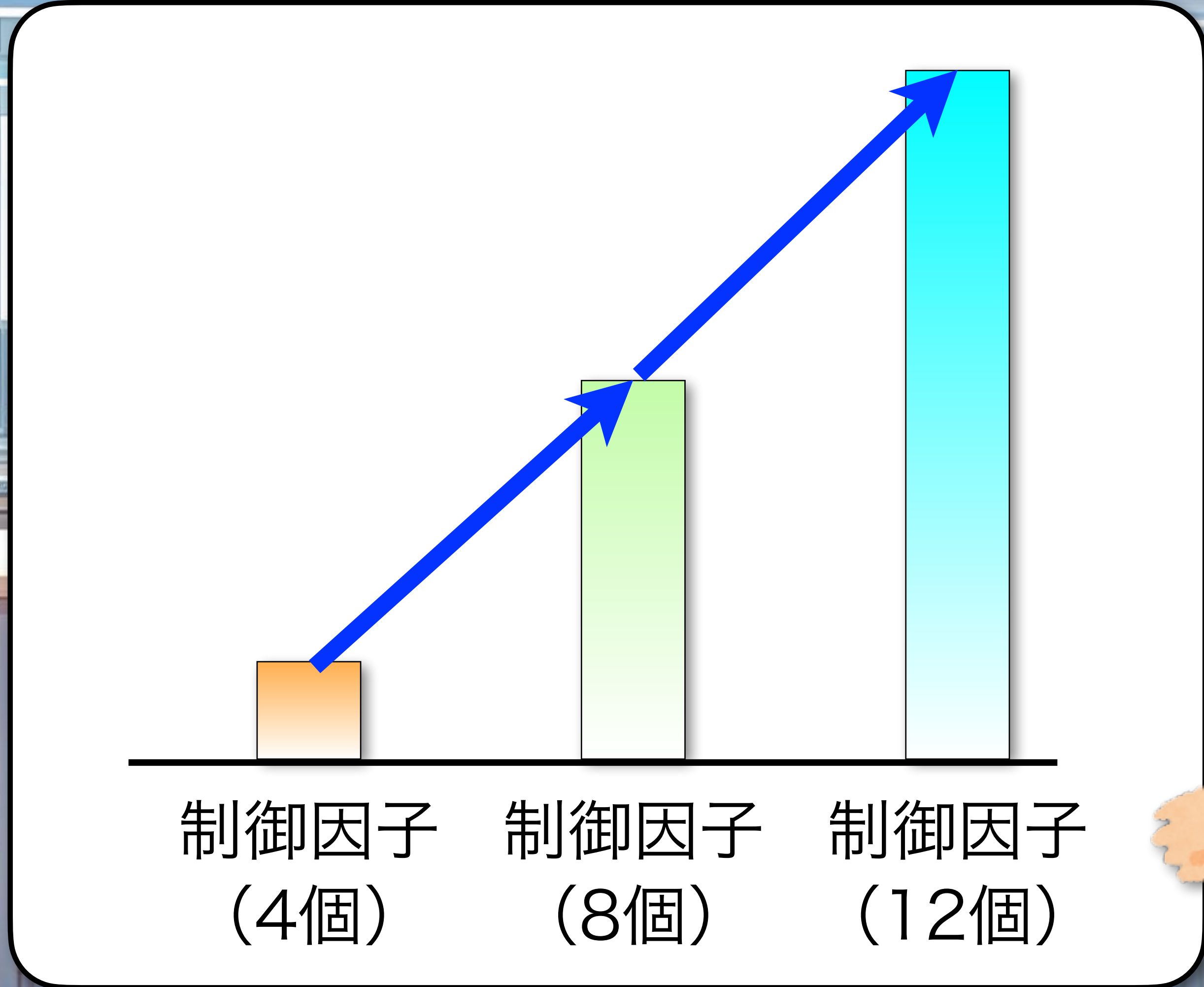
制御因子  
(8個)



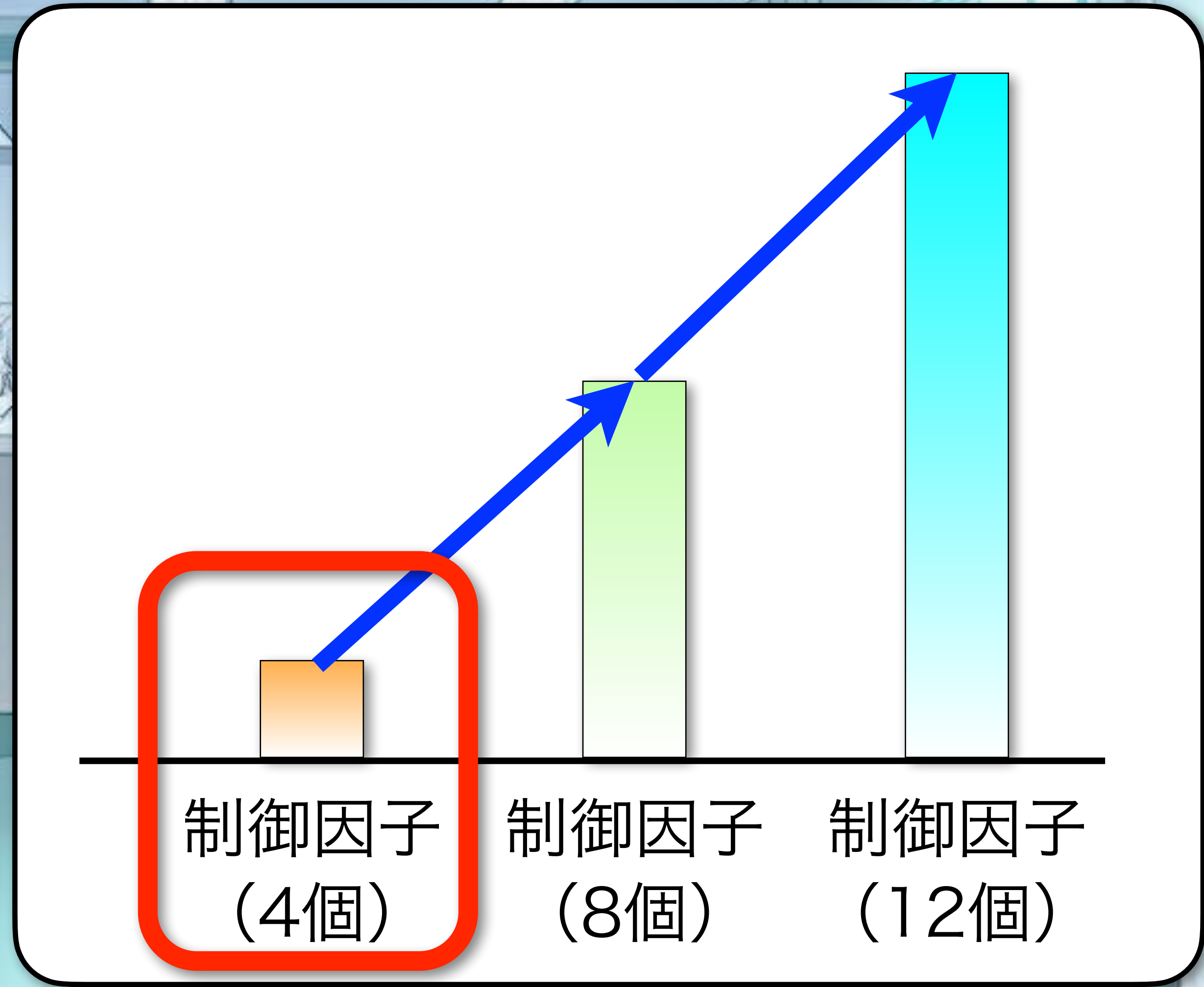
# これは単なる確率の問題です



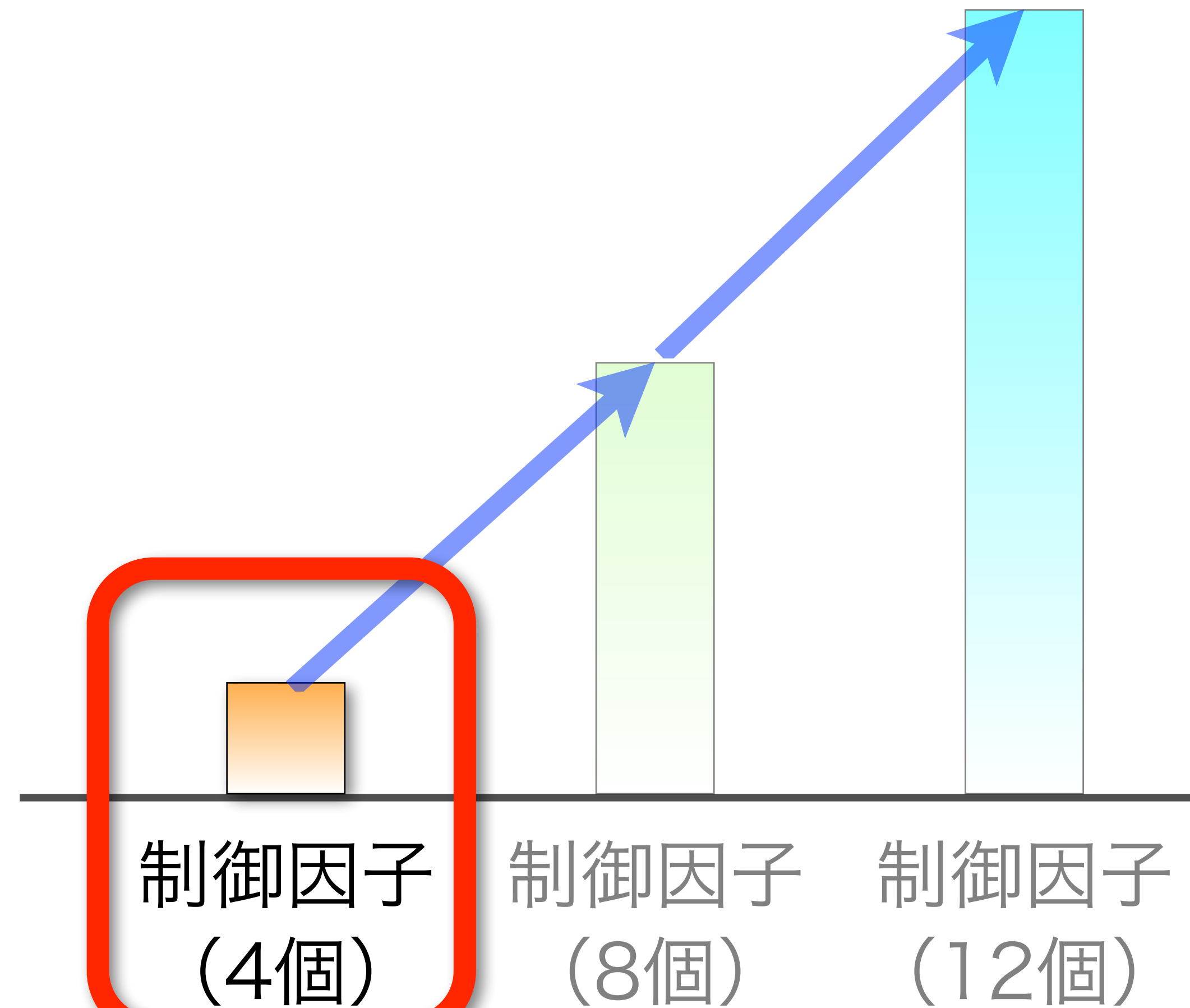
つまり、制御因子は多ければ多いほど、  
性能を改善できる可能性は高くなるのです



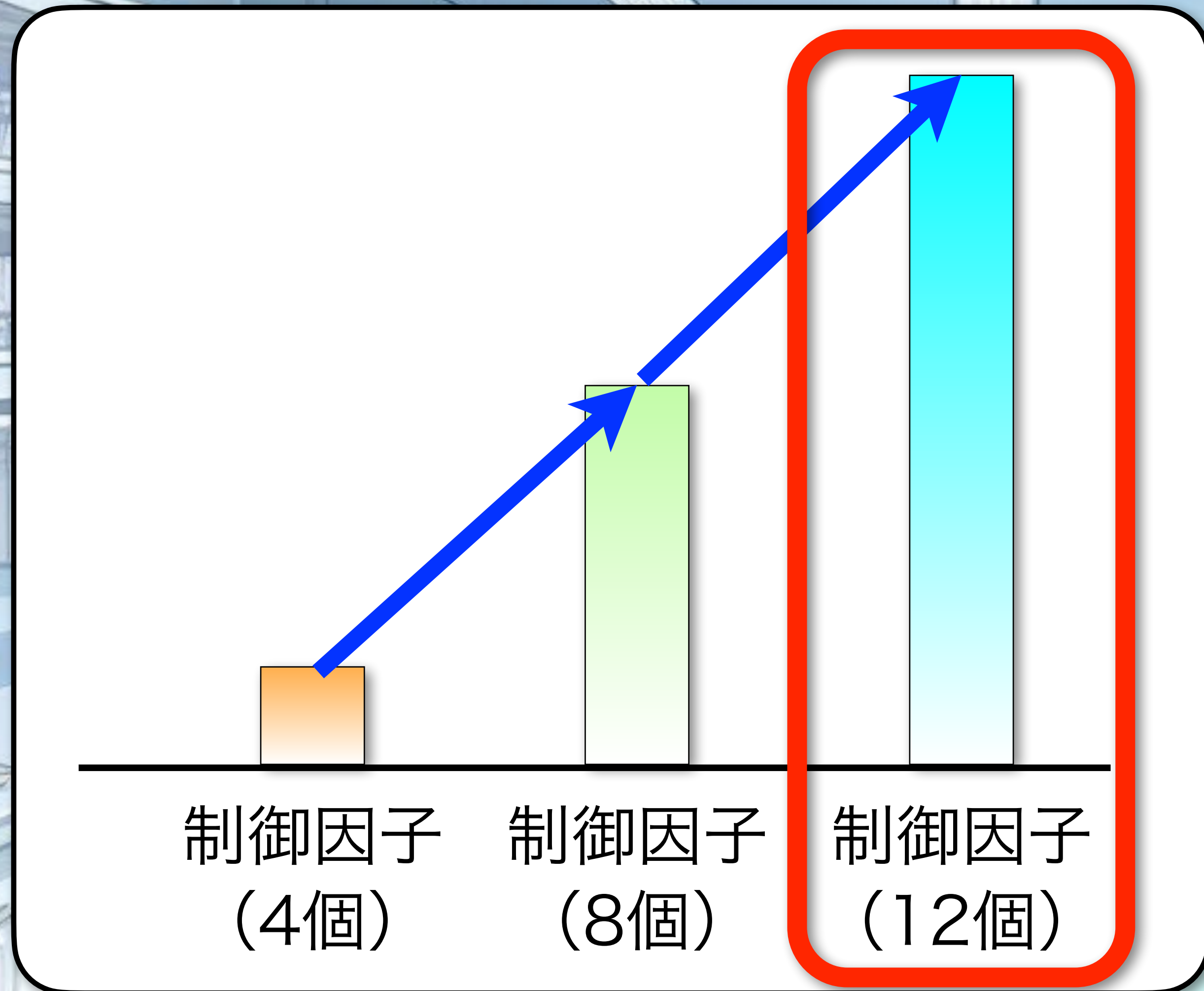
しかし私は、  
直交表の実験が面倒だったので、  
直交表に割り付ける制御因子を、故意に少なくしてしまったのです



その結果、改善できる可能性が低くなり、  
思ったほどの改善ができませんでした



『もっとたくさんの方の制御因子を直交表に割り付けておけば良かった!』と激しく後悔しました



だから皆さんも、大きな改善効果を得たいのなら、  
(面倒くさがらずに)

より多くの制御因子を直交表に割り付けて実験してもらいたいです





いかがでしたか？



**高評価、チャンネル登録などは不要です。**

**この動画が**

**品質工学に興味を持つきっかけになってくれれば**

**私は嬉しいです。**



有限会社  
増田技術事務所  
(公式チャンネル)

# もっといい 品質工学



有限会社増田技術事務所 (公式チャンネル)

! A Y B  
E H  
#  
A B  
H

Ende